

青年部会のとりのまとめ骨子(たたき台)

1 これまでの経過

<第1回青年部会 11月9日>

- ビジョンの論点に基づき、富山県の望ましい将来像とそのため今から取り組むべき方策等について各委員一人ひとりから意見発表（キックオフ）

<合同分科会 12月22日>

- 富山の未来を考えるため、現在の富山県が抱える不安要素、課題について議論（身近な心配事、その原因、このまま何もしないと将来どうなるか）

<第2回青年部会 1月15日>

- 合同分科会の議論を踏まえて、改めて将来の富山県の目指すべき将来像をイメージしながら、「採るべき具体的な行動」を各委員から提案。
- 将来予測されるメガトレンドが、富山県の将来にどのような影響をもたらすかについての仮説を例示。

<第3回青年部会 3月4日>

- ビジョン策定に当たって、将来予測のためのエビデンス（人口の変化、技術革新の進展、環境問題、グローバル化、北陸新幹線の大阪開業 など）を確認。
- 第2回部会で各委員から提案のあった取組みを、経済、文化、人づくりを縦軸に、三つのキーワード（横軸）を抽出し、9つのカテゴリーに分類整理。
- 幹事等から提案された「長期ビジョンストーリー」（個人の30年後のありたい姿とそれを実現するための施策・方向性）をもとに、各委員と意見交換。

2 策定にあたっての考え方

- 20年、30年先がどうなっているか、「過去の延長線上」に将来のビジョンを描くのではなく、ありたい富山県の姿を描き、考察することが重要ではないか。
- そのためには、人口減少や第4次産業革命の到来、地球環境問題、グローバル化（フラット化）の進展など、将来を大きく左右する変化を予測する必要がある。
- これらのエビデンスをもとに、目前の課題に対処療法的に対応することと同時に、すぐに芽が出なくても、予測される未来社会を富山県の将来にカスタマイズして取るべき方策を検討する。そこから将来につながるシナリオを見定め、富山発の日本、世界の社会的課題の解決につなげていくことが重要ではないか。
- 我々が後期高齢者になる時、我々の子供たちが親世代になっている時代を、目を細めて予測し、若者らしく、あえて制約をポジティブに捉えなおして、ふるさと富山県の経済、文化、人づくりに関する将来像と取り組むべき展開方向を提案する。

3 将来像及び採るべき展開方向

これまでの青年部会での議論のキーワードから、「富山県の20年先、30年先の将来像」を次のとおり提案する。

20年先、30年先の将来像の実現に向けて、富山県の採るべき方針・対策を展開方向として、次のとおり提案する（※内容は今後精査予定）。なお、具体的な施策レベルについては県当局に委ねることとする。

① 新たな価値（経済力、文化力、教育力）を創造し続ける、と同時に、守るべきものが守られている（あるものを活かす）社会

例

- ・IoT等を活用した県内中小企業によるモノづくりネットワークの構築
- ・伝統文化・伝統工芸の継承とクリエイティブ産業および人材の集積の促進
- ・未来社会の労働市場において価値が認められる能力開発、教育体系の確立

② 県民生活（経済、文化、人づくり）の中に「グローバルとローカル」が融合することで新たな魅力がデザインされ、国内外から人や企業が集積している社会

例

- ・打錠機の開発・海外輸出などアジアトップの「医薬品製造都市」の実現
- ・県デザインセンターの強化による「クール富山」のグローバル発信
- ・ふるさと教育とグローバル教育を両輪とした富山型の人材育成

③ 個（地域）の力が、経済的にも文化的にも研磨され、ダイバーシティ（多様性・異質性）を尊重する心豊かな県民がふるさとを支え、経済と文化が響きあい共生している社会

例

- ・生産年齢人口の再定義による生涯現役社会の実現、質の高い職業人材の確保
- ・若者や女性をターゲットとした文化芸術の魅力発信、文化意識の醸成
- ・社会的貢献に応じた「ソーシャルキャピタルポイント制」の導入

4 おわりに

- 我々としては、今回の「提案」を「提案」のまま終わらせるのではなく、県が定める長期ビジョンの実現に向けて、一人一人がしっかりフォローアップしていく責務を担いたいと考えている。
- 青年部会として長期ビジョンの策定に関与し、改めて富山県が恵まれない環境を克服し、全国トップクラスの暮らしやすさを実現してきたことを実感した。
- 「富山売薬とドラえもん」、この二つが代表するように、富山県人の持つ特異性は、時代を越え、国境をも越えた普遍性を生み出してきた。長期ビジョンが富山県人のチャレンジ精神を生かし、世界に通じる新たな価値を創り出すことを念願する。